

JA全農ウィークリー
WEEKLY

2
面

J A 経営基盤強化に向け J A 支援説明会開催 (経営企画部)

3面

飼料用米活用畜産物ブランド
日本一コンテストで農水大臣賞受賞（秋田県本部）



佐竹敬久秋田県知事(左から2人目)に飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテストの農水大臣賞受賞を報告する秋田県本部の杉山昌史前県本部長(左)ら(3面)



リニューアルオープンしたJA全農たまご
「TAMAGO COCCO」の新作スイーツ(2面)



全国の県本部・経済連からJA支援の取り組み責任者が集結した「JA経営基盤強化に向けたJA支援説明会」(2面)

- ## 2 JA全農たまごのスイーツショップ 「TAMAGO COCCO(たまごっこ)」移転し リニューアルオープン(畜産総合対策部)

- ### 3 PR動画「みんなで食べよ! パールライス」 YouTubeに公開(米穀部)

- #### 4 全農本所職員がスマート農業で講義 (広報・調査部)

ハウスぶどう統一販売がスタート (山梨県本部)

- 5 まんが『お肉のひみつ』の企画・制作に
全面協力(畜産総合対策部)

6月13日の田んぼの生きもの調査研修会 参加者募集(広報・調査部)

- ## 6 「アピネス／アグリインフォ」、 「Z-GIS」に 新機能追加（耕種総合対策部）

- 7 平成30年度JAグループ
農機サービス士に53人認定(耕種資材部)

- ## 8 全農×フェリシモ「純農」プロジェクトがスタート(フードマーケット事業部)

「毎日農業記録賞」の募集開始(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介

JA紀北かわかみ『腕自慢』(和歌山県)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

**Web
限定**

世界卓球 日本代表選手を
「ニッポンの食」で応援!(広報・調査部)

**世界ミックスダブルスカーリング
日本代表選手を「ニッポンの食」で応援!
(広報・調査部)**

News!



JA 経営基盤強化に向け JA 支援説明会開催

広島・岩手・宮城・福島県本部が事例を紹介

経営企画部



全国の県本部・経済連からJA支援の取り組み責任者が集結した「JA経営基盤強化に向けたJA支援説明会」



あいさつで全農のJA支援の取り組みについて説明する神出元一理事長

全農は4月23日、東京都内で「JA経営基盤強化に向けたJA支援説明会」を開きました。

全農の役員、県本部副本部長、経済連の担当部長、取り組み関係者120人が全国から出席しました。

説明会では、経営企画部からJA支援の取り組みの基本的な考え方を説明した他、広島・岩手・宮城・福島各県本部がJA支援の事例を紹介しました。

取り組み内容としては、主体的に取り組む重点JAと県本部・経済連が、地域の実態・組合員の声・ニーズに基づいた「県域独自メニュー」のPDCAサイクルを構築し、さまざまな取り組みを行います。JAの事業拡大と収益力向上、運営コストの抑制に向け、業務の進め方や事業運営方式の見直しに取り組みます。

また、中央会・信用システムによるJAの事業分析が全国で予定されており、全国・県域で連携を進めます。

今後、JA支援の取り組みを全農ウィークリーで定期的に報告していきます。

News!



TAMAGO COCCO新装オープン!

JA全農たまごのスイーツショップが移転

畜産総合対策部



オシャレなスイーツショップに生まれ変わった「TAMAGO COCCO」

JA全農たまごのスイーツショップ「TAMAGO COCCO（たまごっこ）」が、東京都新宿区市谷薬王寺町に移転し、オシャレなスイーツショップに生まれ変わって、4月11日にオープンしました。

JA全農たまごは、平成28年8月からスイーツ事業を開始しました。1号店の「たまごCOCCO by JA全農たまご」は近隣のお客さまにご愛顧いただいた他、「みのり・みのる食堂」や「いちごいちえ」でも販売し、好評をいただきましたが、店舗・工房が手狭となったため、移転を計画していました。

このほど、コンセプトをさらにブラッシュアップし、たまごと国産商材の価値をスイーツを通じてお客さまに提供する新店「TAMAGO COCCO」としてリニューアルオープンしました。ガラスを多用した店内は、工房でスイーツが焼き上がる様子がうかがえ、お客さまの五感を刺激します。

シェフ岩村周平こだわりの新作スイーツをぜひ、お試しください。

TAMAGO COCCO 店舗概要

〒162-0063
東京都新宿区市谷薬王寺町52-5宮尾ビル1F

TEL:03-6273-0401

営業時間:11:00~19:00 定休日:水曜日
※営業時間、定休日は変更する場合があります

最寄り駅:都営新宿線曙橋駅
A3出口 徒歩6分

大江戸線牛込柳町駅
南東口 徒歩5分

ホームページは
こちら





飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテストで農水大臣賞

秋田県小坂町のポークランドグループが県知事に受賞報告

秋田県本部



農水大臣賞受賞報告で左から秋田県本部の杉山昌史前県本部長、佐竹秋田県知事、ポークランドグループの豊下代表、JA全農北日本くみあい飼料㈱の守江寛社長

ポークランドグループは、餌に地元産の飼料用米を配合した豚の生産をしており「日本のこめ豚」「米っこ桃豚」のブランド名で首都圏や県内に年間約14万頭を出荷しています。飼養するすべての豚に離乳後から約10%、肥育後期には30%の飼料用米を与え、年間使用量は約

一般社団法人日本養豚協会が開いた「第2回飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」で、ポークランドグループ（秋田県小坂町）の「日本のこめ豚」「米っこ桃豚」が最高賞の農林水産大臣賞を受賞し、3月18日に佐竹敬久秋田県知事に受賞を報告しました。

1万トです。県内の休耕田活用などにもつながっている取り組みが高く評価されました。使用している飼料用米は、秋田県本部が全量集荷し、JA全農北日本くみあい飼料㈱が加工製造しています。

ポークランドグループの豊下勝彦代表は「今後も出荷頭数を増やしていける仕組みを作っていかなければならない。それに伴い、米の利用や自給飼料の活用、耕作放棄地を開墾するなどの取り組みにもっとつながってほしい」と話しました。佐竹県知事は「この受賞を励みにいい豚を育ててください」と激励しました。



PR動画「みんなで食べよ！ パールライス」YouTubeに公開

若い世代向け お米が大好きな女の子が歌って踊るポップな動画

米穀部



YouTubeの動画は
こちらから



パールライス

全農は、JAグループの精米ブランド「パールライス」の認知度向上のため、PR動画『みんなで食べよ！パールライス』を制作し、このほどYouTubeに公開しました。

「パールライス」は全農が保有している商標で、「安心」「安全」「新鮮」「良食味」を基本理念とするJAグループの精米ブランドとして、多くの消費者に愛されてきました。

そしてこれから先も「パールライス」が愛され続けられるように、特に子どもと子どもを持つ親世代に「パールライス」を知ってもらうことを目的として、今回動画を制作しました。

動画は、お米が大好きな女の子が歌って踊る楽しくポップな動画に仕上げましたので、皆さま、ぜひ一度ご視聴ください。

News!



全農本所職員がスマート農業で講義

山形県農協青年組織協議会が幹部研修会

広報・調査部

ドローンを前に全農本所職員からスマート農業について学ぶ青年部員ら



今回の研修は、2月のJA全国青年大会に合わせて全農の長澤豊会長を尊敬訪問した山形県農協青年組織協議会役員が、スマート農業について学びたいとの要望を伝えたことがきっかけとなり、本所職員4人が研修会の講師を務めることになりました。

耕種総合対策部は営農管理システム「ZIGS」と、ナイルワークス社が開発する、ドローンを自動飛行させて農薬散布する技術などを紹介。畜産生産部は、スマートフォンなどで牛の個体情報を把握できるファームノートやモバイル牛温恵^{ごうんけい}について、生産資材部は大型トラクターの共同購入の取り組みについて説明しました。

青年部員からは、ドローンによる農薬散布で大幅な省力化が図られることへの期待の聲が上がりました。

山形県農協青年組織協議会が3月28日、山形県山形市で開いた幹部研修会で全農本所の職員が、最先端の技術を活用したスマート農業について講師を務めました。県内のJA青年部員ら約50人が参加。ドローン（小型無人飛行機）の実物も使うなどしながらの研修に、参加者からは経営の効率化に役立てようと、高い関心が寄せられました。

News!



ハウスぶどう統一販売がスタート

県内主産地JAと連携し有利販売・生産者手取り向上を目指す

山梨県本部

ハウスぶどう統一販売に向け検査中のぶどうを見守る中澤組合長（手前右）と梶原県本部長（手前右から2人目）



一昨年からハウスぶどう統一販売は、従来品種の「デラウェア」「キングデラウェア」に加え、「巨峰」や「ピオーネ」などの大房ぶどうも加わり、販売窓口の一本化により、さらなる有利販売・生産者手取り向上を目指します。

今年の県本部によるハウスぶどう統一販売は、6月10日出荷分までの予定で実施します。初日はJAフルーツ山梨マンモス共選所での出発式が開かれ、JAフルーツ山梨の中澤昭組合長、JAハウスぶどう部会委員会、JA本所部課長・担当者、行政、早期輸送組合など多くの関係者が参集しました。

梶原一明県本部長は「ハウスぶどう統一販売が、成功裡に終わりますことを関係者の皆さま方のご協力をお願い申し上げます」とあいさつしました。

当日運び込まれたハウスぶどうは、山梨県青果物検査協会の検査を受けた後、首都圏・関西地域に向け出荷されました。

山梨県本部が県内主産地JAと連携して運営するハウスぶどう統一販売が4月17日から始まりました。



まんが『お肉のひみつ』の企画・制作に全面協力

全国の小学校や公立図書館に2万5500部寄贈

畜産総合対策部

全農は、「学研まんがでよくわかるシリーズ」の最新刊『お肉のひみつ』の企画・制作に全面協力し、3月18日に発売されました。同書は、3月下旬から4月にかけて、日本PTA全国協議会の推薦図書として、全国の小学校や公立図書館に2万5500部が寄贈されました。

「学研まんがでよくわかるシリーズ」は、まんが形式の学習教材として40年以上にわたって人気を集める小学生向けの書籍です。全農が制作に協力した「お肉のひみつ」では、小学5年生の3人が、肉用牛の繁殖農家、家畜市場、肥育農家、食肉加工場、小売店などへの訪問を通じて、お肉が食卓に並ぶまでには、たくさんの人の働きとつながりが込められていることを学ぶ内容となっています。



全農が企画・制作に全面協力した『お肉のひみつ』

※本書は非売品で書店では入手できませんが、ウェブサイト「学研キッズネット」上で公開されています。(スマートフォンからは閲覧アプリが必要です。)



全農は、子どもたちの農業や食料に関する理解を促進し、食育に貢献していきます。



6月13日に田んぼの生きもの調査研修会

JAグループ関係の参加者募集

広報・調査部

全農は、6月13日に埼玉県杉戸町で開く田んぼの生きもの調査研修会の参加者を募集しています。平成23年から始まった研修会には、毎年多くのJAグループ関係者が参加し、各地域での「生きもの調査」の普及に貢献しています。皆さまの参加をお待ちしています。

全農は平成18(2006)年度から、「田んぼの生きもの調査」を環境SR(社会的責任)活動の柱と位置付け取り組んでおり、昨年度の参加人数は延べ4200人を超えるまで拡大してきました。

その地域になくてもいいことを、楽しく学べる活動として高く評価されています。また、国連が定めた持続可能な開発目標SDGs(Sustainable Development Goals)の一つの手法としても期待されています。

この活動は、消費者が、日本のお米を食べ続けることの大切さを理解すること、水田が果たす多面的機能(生物多様性)を国土保全や生きものとの共生の観点から学ぶことを目的としています。

募集要項

募集人員	40人(申し込み多数の場合は抽選)
対象	JA職員、県連職員、関連会社社員、全農グループ職員
日時	6月13日(木)9時30分～15時30分
参加費	無料
場所	杉戸町立高野農村センター(埼玉県杉戸町)
講師	谷川 徹氏(農と生きもの研究所)、 嶺田 拓也氏(農業・食品産業技術総合研究機構)、 高橋 朝美氏(一社 環境パートナーシップ会議)
協力	埼玉県杉戸町、JA埼玉みずほ
締め切り	6月7日(金)
申し込み	株全農ビジネスサポート 広告企画部(担当:中川)
問い合わせ	TEL:03-3296-8676 E-mail:tanbo@z-bs.co.jp



「アピネス/アグリインフォ」、 「Z-GIS」に新機能追加

営農管理や営農指導などに活用を

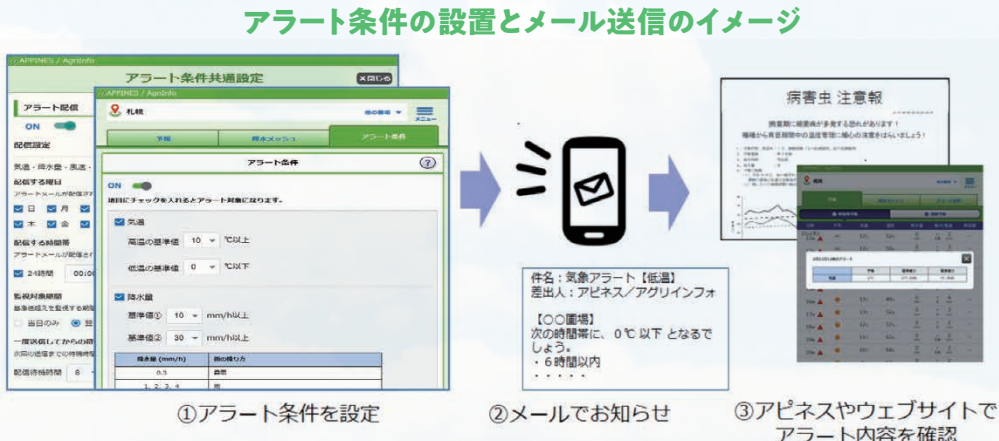
耕種総合対策部は、JAグループ向け会員制営農情報サービス「アピネス/アグリインフォ」と生産者・JA向けの営農管理システム「Z-GIS」に新機能を追加しました。

【耕種総合対策部】

「アピネス/アグリインフォ」 気象情報のメール送信機能などを追加

アピネスの気象情報コンテンツにアラートメールを送信する機能を追加しました。事前に設定した条件に合致する気象予報が発生した時に、指定したメールアドレスへ「お知らせメール」を送信します。気温、降水量、風速、降雪量、霜、積算温度の6要素について、ユーザーが自由に条件設定できます。さらに、指定した都道府県の病害虫発生予察情報が発表された際にメールを受信する設定も可能です。

また、会員でなくても利用できるログイン前のトップページに営農情報の掲載を始めました。研修会・講習会、会議、マニュアルなどの資料や動画を



掲載することにより、幅広く全農の取り組みを発信します。今後徐々に情報を増やしていきます。

入会、閲覧は
こちらから



Z-GIS 1kmメッシュ気象情報の利用を開始

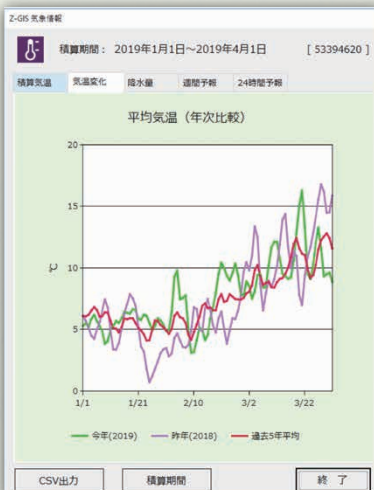
Z-GISはインターネット上の電子地図とMicrosoft Excelのワークシートを結び付けた地理情報システムです。

今回のバージョンアップでは、アピネス/アグリインフォで利用している1kmメッシュ気象情報の一部をZ-GISでも利用できるように改良しました。Z-GISの地図の中心で気象ボタンをクリックすると、その地点の気象情報が表示され、気温、降水量、天気予報、任意の期間の積算気温や、積算気温に達する日の予想などがグラフ表示されます。

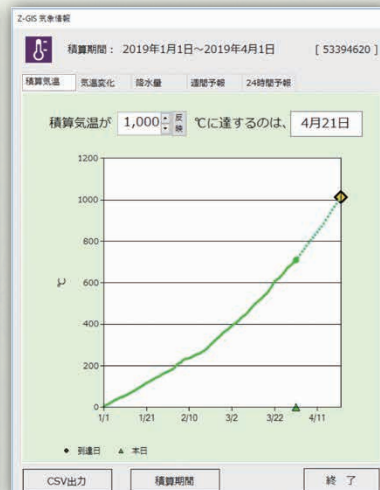
入会、ダウンロードはこちらから



活用例:1~3月の気温の推移



活用例:積算温度1,000℃
到達日の推定



アピネス、Z-GISの新しい機能をぜひ営農指導などにご活用ください。

平成30年度

JAグループ農機サービス士53人を認定

技術力向上で組合員との信頼強化へ

全農は平成30年度のJAグループ農業機械検定を行い、1級5人、2級48人の合格者を新たにJAグループ農機サービス士として認定しました。【耕種資材部】



2級コンバイン
電装の試験

2級トラクターの
試験



2級田植機の
試験

JAグループ農業機械検定は、経験年数に応じた農機担当者のスキルアップが目的です。実際の修理・整備に必要な知識・技能や、メーカー固有の機構・新技術、納品・安全指導など、より業務に密着した内容を取り入れて実施しています。

平成30年度は1級46人、2級106人が受検し、学科試験と実技試験の両方で合格基準に達した1級5人(合格率11%)、2級48人(合格率45%)をJAグループ農機サービス士として認定しました。平成23年度から実施しているJAグループ農業機械検定は、平成30年度の合格者を含め累計で1級47人、2級250人、合計297人の農機担当者が、全国の農機センターの第一線で活躍しています。

この検定により、JAグループ農機担当者の一層の知識習得と技術の研鑽^{けんさん}を促し、組合員との信頼がより一層強化するものと期待しています。平成31年度のJAグループ農業機械検定は、6月公示、11月学科試験の予定です。

平成30年度「JAグループ農機サービス士」認定者

等級	氏名	都府県名	所属
1級	坂野 裕樹	山形	JA山形おきたま
	石塚 崇	千葉	JA八千代市
	土屋 圭輔	新潟	JA佐渡
	岩崎 篤嗣	鹿児島	JA鹿児島県経済連
	堀元 伸二	鹿児島	JA鹿児島県経済連
2級	石川 翔太	岩手	(株)JAグリーンサービス花巻
	安藤 匠悟	岩手	(株)JAグリーンサービス花巻
	千田 祐太	岩手	(株)JA岩手ふるさと農機サービス
	菊地 志信	岩手	(株)JA岩手ふるさと農機サービス
	三浦 智史	岩手	全農岩手県本部
	菊地 敦志	宮城	JAみやぎ亘理
	齋藤 知之	山形	JA庄内みどり
	菅野 優樹	福島	(株)JAふくしま未来サービス
	岡山 泰士	栃木	全農栃木県本部
	海老原 孝幸	栃木	全農栃木県本部
	岡本 和貴	栃木	全農栃木県本部
	山崎 大夢	埼玉	全農埼玉県本部
	中村 智重	千葉	JAとうかつ中央
	大坂 一貴	千葉	JA成田市
	東郷 健一	千葉	JA成田市
	加藤 幸蔵	東京	JA東京あおば
	山田 啓介	新潟	JA越後さんとう
	山本 喜良一	富山	JAいなば
	小泉 直人	富山	JAいなば
	原 知嗣	富山	あおば興産(株)
	松山 将之	岐阜	JAめぐみの
	小島 和也	岐阜	全農岐阜県本部
	今西 宏樹	岐阜	全農岐阜県本部
	山田 智大	岐阜	全農岐阜県本部
	河合 義久	静岡	JA静岡経済連
	天野 裕司	静岡	JA御殿場
	荒川 裕史	三重	JA鈴鹿
	大西 祐輔	三重	JA鈴鹿
	小森 優也	滋賀	全農滋賀県本部
	伴 拓樹	滋賀	全農滋賀県本部
	大橋 直樹	滋賀	全農滋賀県本部
	今井 博康	京都	全農京都府本部
	星野 和範	島根	JAしまね
	末次 恭大	島根	JAしまね
	井上 智生	広島	JA広島中央
	中廣 晃	広島	JA広島中央
	森田 哲也	広島	JA広島中央
	成富 洋輔	佐賀	JAさが
	黒田 卓児	佐賀	JAさが
	西岡 宏治朗	佐賀	JAさが
	中島 敬之	佐賀	JAさが
	上原 佑太	長崎	JAながさき県央
	濱邊 寿	長崎	JAながさき県央
	松崎 真也	熊本	JA菊池
	西 研精	熊本	JAたまな
	図師 功太郎	宮崎	JA宮崎経済連
	日吉 保博	本所	全農本所
	平島 彰喜	本所	全農本所

全農×フェリシモ「純農」プロジェクトがスタート

全農は、通販業界大手・株式会社フェリシモと共同で「純農」プロジェクトを立ち上げ、4月22日、同社でのJAグループ商品の販売がスタートしました。
【フードマーケット事業部】

食品産業で使用する輸入原材料の比率は高水準にある中、国産農畜産物の消費拡大に取り組む全農と、しあわせ社会創造を理念とするフェリシモの思いが一致し、本プロジェクトを始めることになりました。

「純農」プロジェクトでは、主原料は国産という基準を設け、熊本県産大麦・玄米使用のグラノーラや、愛媛県産かんきつ類のドライフルーツ、山梨県産ブドウのワインなど、全農とフェリシモが共同で開発・選定した商品だけを販売します。

また、カタログやウェブサイトで、商品の背景にある生産者や産地の思いを伝える記事やコンテンツも発信していきます。

「純農」プロジェクトのウェブサイトはこちら



「純農」プロジェクトのカタログ



「毎日農業記録賞」の募集開始

詳しくはこちら

「第47回毎日農業記録賞」(主催:毎日新聞社、全農が協賛)の募集が、4月20日に始まりました(9月4日まで)。「一般部門」と「高校生部門」があり、「農」や「食」「環境」への思い、体験、提言をつづった作品を募集しています。

【広報・調査部】



JAタウン |

検索
クリック

JA紀北かわかみ「脱自慢」(和歌山県)



JAタウンは
こちらから



採りたて 実さんしょ(500g)……
3100円

年間通じてさまざまな農作物が味わえる和歌山県。山間ではたくさんの農作物が栽培されていますが、春の収穫物トップバッターとしてでてくるのが実さんしょです。

お料理のアクセントとして、さまざまな料理に利用されます。特にこの朝倉山椒は、紀州の豊かな自然の中で育っていますので、皆さんにとっても良い香りを楽しんでいただけます。

また最近ではジャパニーズペッパーとして海外でも人気です。あく抜きをし、密閉式の保存袋などで小分けして、冷凍保存すれば便利に使用できます。この機会に紀州の実山椒をぜひ堪能ください。

JA全農のインターネットショッピングモール
▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。